

若手講師による目線を合わせた研修と独自の研修資料の作成

取組の背景と実施内容

当協会が、グループワークの事例作成及びファシリテーターを務めた勉強会（主催：横浜財務事務所）に参加された中栄信用金庫から、若手職員向けに研修してほしいとの申し出があったことから、「業種別支援の着眼点～建設業編～」の合同研修を開催した。

研修は二部構成で行い、第一部は講義形式、第二部はグループワークを行った。

研修の受講生は、入庫1～4年目の若手職員15名程度であったことから、当協会でも若手職員が講師を務める研修を企画した。理由は、同年代であれば、金融機関と保証協会で立場や組織が違って、事業者支援における悩みは共通している部分が多いからである。実際、受講生がまずポイントについて講師が理解できることで、あらかじめ対策することができ、受講生にとってわかりやすい研修になった。同時に、受講生との積極的な意見交換が期待できるので、講師にとっても学びになった。

「着眼点」を踏まえたオリジナル資料の作成

まず、講義用に「着眼点」をより理解しやすいように、図やイラストを組み込み、事業者支援のポイントを取りまとめた、若手でもイメージしやすい形で資料を独自に作成した。

そしてグループワークでは、実際の小規模建設業の支援事例をもとに、着眼すべき財務課題や定性面の情報を示すことなどを通じて、事業者の実態をイメージできる様に工夫した。加えて、事業者支援を進めるにあたり、留意すべき指標や確認しておくべき項目などを整理することで、事業者の経営課題について仮説を立て、深度あるヒアリング項目について検討した。



担当者ヒトコトコメント

表面財務の分析に留まらず、事業者の実情を踏まえたより効果的な事業者支援を行うために、「着眼点」を活用していきたいと考えています。

積極的に意見を発信できるグループワークの工夫

グループワークでは、少人数制とするとともに前提事項として、「事業者支援に正解はない」、「率直な意見を言ってほしい」ことを伝え、ディスカッションにおける受講者の積極的な発言を促した。

同年代のファシリテーターが担当することで、受講者が委縮することは少ないものの、その他にも初対面でも名前を呼びやすくするための名札の着用や、発言に対する拍手の励行、発言が苦手な人も意見を出せるように付箋や模造紙を活用したブレインストーミングの実施など、積極的な参加を促す環境を整えたこともあり、研修中は活発な意見交換が行われた。

受講者からは、「実践的な研修のおかげで現場でも使えそうだ」、「決算書の数字だけを見たらネガティブな印象の企業でも、企業情報を見るとポジティブな支援ができるかもしれないと思うようになった」、「仮説を事前に立ててからヒアリングすることで、より深掘りができそだ」と好評を得た。

今後の取組

金融機関においても、事業者支援や事業性融資の経験に差があると思われるが、若手職員同士の研修会を通じた連携により、引き続き支援能力の向上に努めていきたい。

また、若手職員には「着眼点」を一つのきっかけに、傾聴力や対話力を身に付け、積極的に実践することで事業者と信頼関係を深めてほしい。

そして、研修の内容を金融機関内でも広めていただき、多くの仲間が地域の事業者支援を進めてほしいと考えている。



「着眼点」活用のポイント



01

若手による目線を合わせた研修

講師・受講者ともに若手とすることで、業務の課題や悩みを共有できるなどの目線を合わせた研修会の実施。

02

「着眼点」を踏まえたオリジナルの研修資料

若手職員が理解しやすいように「着眼点」に図やイラストを入れ込み、事業者支援のポイントをとりまとめた独自資料を作成。

03

発言しやすい環境によるグループワークの実施

積極的な発言を促す声かけや名札の着用、拍手の励行、付箋や模造紙を活用したブレインストーミング手法の活用など、発言が苦手な人でも参加しやすい環境を整えた。

